【十和田市教育委員会】

校務 DX 計画

GIGA スクール構想の下、市立学校へ 1 人 1 台端末や校内 LAN、汎用クラウドツールの導入など ICT 環境整備を行うことで、校務の効率化、教職員の負担を軽減し、児童生徒と向き合うための時間を確保できるような環境づくりに努めてきました。しかし、各校におけるソフトウェアや 1 人 1 台端末の活用状況によって授業の形態や校務処理の方法が多岐にわたっているため、情報化・効率化につながっているとは言い難い状況にあります。

1 クラウドサービスの利活用

・現状と課題

現在十和田市では、端末利用者に Microsoft365 のアカウントを割り振ることで、市教育委員会と学校現場、学校同士、学校内で情報共有や生徒との活動に Microsoft Teams の利用を可能としています。学校と保護者との連絡ツールの導入も行い、行事や日々の情報を配信していますしかし、学校間での活用に格差があることや説明会や面談などオンライン可に対応しきれていないものが課題となっています。

・解決策

学校毎の活用状況と課題を把握するとともに、状況に応じてオンライン形式を取り入れていけるよう事例の調査、研究を進めていきます。

2 FAX でのやり取り・押印の見直し

・現状と課題

令和元年度に成立した「デジタル手続法」の施行に伴い、十和田市においてもデジタル化を推進し、校務効率化のため押印を求める規則などの見直しを進めてきました。しかし、市教育委員会や学校において、慣例的な FAX の利用や一部文書について明文化されていない慣行に基づいた押印を求めている状況にあります。

令和 5 年 12 月に文部科学省より公表された「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類や FAX の過度な利用はクラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害するものだと指摘されています。

・解決策

災害時やネットワークの不具合が発生した場合など一部を除いた FAX の原則廃止と押印を求めている書類について、慣行の見直しや呼びかけについて継続的に働きかけていきます。

3 その他

本市では、クラウド型の校務支援システムを令和8年度稼働を目標に令和7年度から導入・構築を計画しています。システムを活用することで、児童生徒情報や教職員情報を成績や出欠情報等と連携させることで不合理な手入力作業の一掃が期待できます。また、現在市立学校のネットワークは、校務系と学習系で分離させることで、セキュリティ上のリスクを低減させています。文部科学省で推奨しているネットワーク統合やクラウドサービスの活用を前提とした校務の実施に向けた環境整備については現在検討段階であり、先行自治体による好事例や文部科学省で実施している実証事業の報告を注視していきます。